



千導

決断は、今の自分ではなく理想の自分で！

一般社団法人千歳青年会議所

事務局

〒066-0042

千歳市東雲町 3 丁目 2 番地の 6 千歳商工センター 1F

TEL&FAX 050-3588-2436

ホームページ <https://chitose-jc.com/>

E-mail mail@chitose-jc.com

2024
Annual Report

令和6年能登半島地震につきまして

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、石川県能登地方を中心に甚大な被害を受けました。被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。
千歳青年会議所として1月6日から千歳市内の複数個所で募金活動を行いました。「お疲れ様です」「頑張ってください」市民の温かい声と共に寄せられた義援金502,445円は、1月30日に千歳市社会福祉協議会を通して日本赤十字社に送られました。また4月には千歳青年会議所メンバーの4名が実際に被災地へ赴き、被災状況を自身の目で確認し支援活動を行って来ました。無常にも9月には大雨災害も発生し、未だに避難生活を送られている方々を想うと胸が締め付けられる思いです。一刻も早い復旧復興を心より願っております。

一般社団法人千歳青年会議所 第61代理事長 斉藤 創

義援金の募金活動の様子



復興支援活動の様子



2024年度正会員リスト

一般社団法人千歳青年会議所 2024年度 正会員リスト

2024年08月05日現在

NO	所 属	役 職	名 前
1	三役	理事長	斉藤 創
2		直前理事長	富樫 昭大
3	三役	副理事長	吉田 さやか
4	三役	副理事長	米田 大樹
5	三役	副理事長	鈴木 文弘
6	三役	専務理事	大久保 景右
7		顧問	生杉 隆礼
8		顧問	瀧 雄一
9		監事	高橋 孔明
10		60周年担当理事	島本 弓樹文
11	次世代育成室/会員拡大会議	室長/議長	林 征希
12	MACHIデザイン室	室長	伊藤 洋平
13	事務局	事務局長	土門 哲也
14	会員拡大会議	副議長	吉田 裕基
15	会員拡大会議	運営幹事	南坂 康太
16	会員拡大会議	議員	生杉 太樹
17	会員拡大会議	議員	稲田 拓也
18	会員拡大会議	議員	種田 大地
19	会員拡大会議	議員	仲井 寿樹
20	会員拡大会議	議員	牧 桃太郎
21	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員長	山根 勇人
22	ジュニアチャレンジ醸成委員会	副委員長	阿部 亜子沙
23	ジュニアチャレンジ醸成委員会	運営幹事	石黒 菜摘
24	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	稲葉 セドリック
25	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	金山 佳央梨
26	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	高岡 暁
27	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	竹原 涼太
28	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	中村 泰征
29	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	南雲 州太郎
30	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	野村 祐也
31	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	藤田 哲哉
32	ジュニアチャレンジ醸成委員会	委員	安田 空源
33	MACHIリノベーション委員会	委員長	成田 芽生
34	MACHIリノベーション委員会	副委員長	高木 克祉
35	MACHIリノベーション委員会	運営幹事	平澤 美穂
36	MACHIリノベーション委員会	委員	五十嵐 智也
37	MACHIリノベーション委員会	委員	越前谷 翼
38	MACHIリノベーション委員会	委員	菅原 桃代
39	MACHIリノベーション委員会	委員	武石 翔太
40	MACHIリノベーション委員会	委員	中田 愛
41	MACHIリノベーション委員会	委員	南雲 英利
42	MACHIリノベーション委員会	委員	服部 良太
43	MACHIリノベーション委員会	委員	吉本 考臣
44	総務委員会	委員長	井上 慎也
45	総務委員会	副委員長	今 裕太郎
46	総務委員会	運営幹事	吉岡 毅
47	総務委員会	委員	稲葉 フランチェスカ
48	総務委員会	委員	今井 涼
49	総務委員会	委員	門脇 拓哉
50	総務委員会	出向理事/委員	土居 潤哉
51	総務委員会	委員	西田 雄太
52	総務委員会	委員	長谷 康礼
53	総務委員会	委員	足田 之彦
54	総務委員会	委員	廣川 匠

【特別編集長】

大久保 景右
土門 哲也

【編集長】

井上 慎也

【副編集長】

今 裕太郎

【編集員】

安保 俊則
西田 雄太
土居 潤哉
吉岡 毅
足田 之彦
稲葉 フランチェスカ
門脇 拓哉
長谷 康礼
廣川 匠
今井 涼
中田 来希

目次

03	目次
04~05	理事長活動報告
06~09	副理事長・専務理事・室長報告
10~11	会議・委員会活動報告
12~13	出向者報告
14~22	例会・事業報告
23	会員褒賞・特別会員褒賞
24~25	60周年式典・大懇親会
26~29	CHITOSE WORLD PEACE FESTIVAL
30~31	組織図・正会員リスト

理事長活動報告



一般社団法人千歳青年会議所
第61代理事長

齊藤 創

60周年という歴史を刻む

本年で創立60周年を迎えこれまで関わっていただいた全ての皆様に感謝の気持ちをもって、創立60周年記念式典及び大懇親会を行いました。5年後の未来に向けて大きなビジョンを皆様にお示しし、その後パワーパートナーとのビジョン会議を実施することでまちの未来への可能性を感じより強く行動に移す決断ができました。そして、8月には青葉公園を広く利用した記念事業として子供たちを対象に防災意識をもつきっかけとなる『CHITOSE WORLD PEACE FESTIVAL』を開催しました。アドベンチャー、グローバル、防災、グルメ、4つのエリアに分け各フィールドに市内外多くの皆様にご参加いただきました。約6時間に及ぶ防災体験を実施し、参加いただいた子供たちは目をキラキラさせ、大人の皆様も本気で行うことで全ての世代に共感していただける環境を創出できました。今年一年を通じ地域に必要とされる組織として圧倒的な存在感を示せたと自負しております。

多くの仲間との可能性

会員拡大というものは本当に生ものであり、どれだけ行動し直接会って想いを伝えることができるかが大きな鍵になってきます。本年も多くの新入会員が入会しましたが、今後の未来を見据え会員拡大を推進し、運動を最大化させる必要があります。JC活動における目標設定やワールドカフェ形式でのグループワークを通じ入会歴に関わらずメンバー同士の交流を図り、個人と組織両面から向き合い理解することの重要性を再認識いたしました。会員拡大とは入会後のフォローアップも重要な担いであり、今後もまちの未来を創造していくために会員拡大の本質を見極めさらなる組織の成長につなげます。

次世代とのチャレンジ

本年は、千歳を担う次世代の子供たちの学力向上と未来への期待や将来への可能性を広げてもらうため、人間性を磨く環境の整備を地域一体となって活発に議論し、改善していく必要があると捉えておりました。千歳市立勇舞中学校の一年生254名に将来への悩みや不安という志向を期待や可能性というポジティブなものへと変化させる、普段では得られない視点からの授業を実施いたしました。そして、事業による職業体験では市内50社に参画いただき、多くの運営ボランティアとメンバー協力のもと、子供たちが原体験を通じ未来への期待と将来への可能性を見出す機会を創出いたしました。また、事業を検証し提案書としてまとめたものを教育委員会に提出し来年度以降に活かせる確かな



資料として残せたことは大きな成果であります。誰もが自由に夢を描ける真に包摂性のある社会を目指し、子供たちの夢の実現に向け後押しできる環境が身近にある、魅力的なまち千歳を感じていただくことができました。

魅力あふれるまちへ

このまちでは世界を牽引する半導体事業が本格的に動き始めました。当然、経済効果を期待するだけではなく、そこには我々市民もあらゆる変化に対応しなくてはならないという現実があることも忘れてはなりません。企業誘致という明るいニュースが目立つ一方で、地域コミュニティの希薄化は千歳市においても大きな課題であり、地域にさらなる賑わいを生み出し、人と人を繋ぐ温かいコミュニティを育む必要があります。そこで本年は「大人の習い事」というテーマで趣味によるつながりを切り口に、地域に住まう人々の交流の場、憩いの空間を創出し、そういった機会が少ない20代、30代の一般参加者の幸福度を上げ、千歳市ならではのコミュニティの幅を体感していただきました。さらに、メディアを活用して私たちがプラットフォームとなり、まちと組織双方の魅力を発信することで多くの共感を獲得し、自らが住まう千歳市への興味関心を郷土愛へと昇華させることができました。

工夫からなる組織運営

本年は歴の浅いメンバーが多く在籍し、運営ラインも然り円滑な運営を模索しながら手探りで進めてまいりました。計画通り推進できなかったことがある一方で多くの改善点が浮き彫りとなり、この先の組織運営における重要な一年になったと言えます。新たな課題が抽出された際には勇気もちチャレンジすること。挑戦から生じる問題にも正面から向き合いさらなる変化に躊躇せず進むことで、規律ある組織運営を行ってまいりました。さらに、当たり前に見える運営には常に縁の下で支えてくれている存在があることを忘れず、心からの感謝を伝えていくと同時に、運営ラインも日頃からポジティブにメンバーと交流を図ることで強固な組織基盤構築につながりました。また、JC活動における当事者意識やモチベーションの重要性、チームビルディングやリーダーシップの開発に不可欠な要素であるコミュニケーション能力の向上など、メンバーの意識改革から組織の可能性を見出すソフト面での課題抽出と改善要望が浸透する新たな道も示しました。「決断は、今の自分ではなく理想の自分で」正にこのスローガンを体現していただいた運営ラインに改めて敬意を表します。

副理事長・専務理事報告



副理事長

吉田 さやか

本年5月10日、創立60周年を迎え無事に迎えることができたこと、心より感謝申し上げます。記念式典では2028年までの中期ビジョンをお示しし、ご支援ご協力いただいている皆様へのおもてなしの心で大懇親会を行い、創立して以来チャーターメンバーから繋いできていただいた歴史を知ることができる記念誌を皆様にお渡しすることができました。そして、8月11日に実施した記念事業では青葉公園にあります、ピクニック広場、陸上競技場、中央公園、ラグビー場と大きなエリアで実施することに挑戦しました。防災、国際をテーマとし多くの子供たちが生き抜く力を身に付ける事業といたしました。また、より多くの方に知ってもらえるよう、グルメ系インフルエンサーとLIVE配信を行い、多くの方に発信いたしました。創立60周年のテーマを「千導」とし、メンバー一人ひとりが導いていく千歳の未来、千歳市内のパートナーと共に進んでいくきっかけとなる貴重な一年となりました。



副理事長

米田 大樹

本年度は齊藤理事長が掲げたスローガン「決断は、今の自分ではなく理想の自分で！」のもと、次世代育成室とジュニアチャレンジ醸成委員会、会員拡大会議の担当副理事長として活動してまいりました。今年度の会員拡大では16名の新入会員を迎えることが出来、担当した2月例会では様々な場面で挑戦することの大切さを学び、7月例会では入会間もないメンバーを中心として参加メンバー全員で『JCに入会して気づいたこと』をテーマに様々な気づきを共有することでこれからの青年会議所活動への活力となる内容となりました。教育の分野においては市内小学校、中学校に現在不足している教育について調査を重ね、5月例会、9月事業を通じて中学生に向け市内にて活躍されている企業様と職業体験が出来る機会を生み出すことでこれからの千歳を背負う人財を育成する環境づくりに寄与しました。本年度の活動を通じて会員増により組織に新たな視点や経験値が加わることで青年会議所活動をこれまで以上に昇華させ、千歳の地に住まう未来ある世代に高い位置でバトンを託すため力を尽くした一年となりました。



副理事長 鈴木 丈弘

本年度は齊藤理事長の掲げたスローガン「決断は、今の自分ではなく理想の自分で！」のもと、MACHIデザイン室とMACHIリノベーション委員会の担当副理事長として活動してまいりました。持続的なまちの賑わいを創出する運動を巻き起こし、さらには情報発信がリードする効果的な広報を繰り返し広げることができました。4月第2例会では、SNSの重要性を理解するために動画構成やポイントを学び、社業やJC活動へ活かすことができる内容となりました。8月例会では、中心街活性化の意識の向上を図るために、千歳市民納涼盆踊り大会に焦点を当て、短冊や山車を作成して中心市街地の活性化に対して気概を高めることができた内容となりました。11月例会では、若い世代に焦点を当て、人間関係の希薄化を改善する内容として、市民を募り趣味でつながることで新たなつながりをつくるためのコミュニケーション能力を高め、活力あるまちの創出の足掛かりとなりました。



専務理事 大久保 景右

まずは本年度、創立60周年という記念すべき年に専務理事という大役を任命いただきましたことに先輩諸兄姉及び現役メンバーの皆様へ感謝申し上げます。私は運営の長として多くのことに挑戦させていただきました。経験豊富なメンバーには昼夜問わずアドバイスを頂戴し、入会歴に関わらず多くのメンバーにも貴重なご意見をいただくことで、誰一人取り残すことのない運営を心掛け邁進することができました。しかしながら、多くは反省の一年であります。至らないことも多くご迷惑ご負担を各所におかけしたのも事実であり、恐らくこの一年で最も学びが多かったのは私自身であります。また、「決断は、今の自分ではなく理想の自分で」をスローガンに掲げ齊藤理事長の女房役として一番近くで様々な機会に触れられたことも私にとってはこれ以上ない学びとなりました。一瞬を逃すことなく決断し行動を起こすことが大きな結果をもたらすのだと原体験として得ることができました。この貴重な経験を糧とし今後も邁進してまいります。一年間、本当にありがとうございました。

室長報告



60周年担当理事 島本 弓樹文

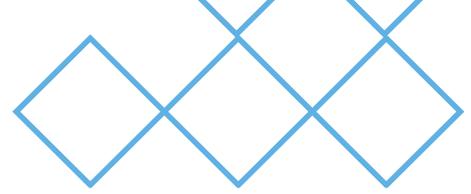
2024年5月10日、千歳青年会議所は創立60周年を迎えました。ここまで紡いできていただいた先輩諸兄姉の皆様の想いを乗せ、記念式典、大懇親会を開催することができたことを心よりお礼申し上げます。8月11日には青葉公園にて創立60周年記念事業を盛大に開催することができました。日頃から関わっていただいている皆様のお力添えがあったからこそ今の千歳青年会議所の運動を発信しお伝えすることができたのだと思っております。千歳青年会議所は70周年へと向かってさらに成長を続け、より素晴らしい組織となる新たな一歩を踏み出した一年となりました。



次世代育成室 室長 会員拡大会議 議長 林 征希

本年度は次世代育成室室長と会員拡大会議議長を兼務し活動してまいりました。会員拡大会議においては16名の新入会員を迎え、担当した2月例会と7月例会では、メンバーが青年会議所活動に前向きになれるような内容を構築いたしました。教育の分野を担当したジュニアチャレンジ醸成委員会においては、5月例会と9月事業を通じて、千歳市の中学生に学校教育だけでは学ぶことができない経験ができる機会を提供することができました。





MACHIデザイン室 室長 伊藤 洋平

MACHIデザイン室ではMACHIリノベーション委員会と共にまちの将来を担う若者に焦点を当て持続可能な中心街の賑わいに向けて活動、発信をしてまいりました。

4月例会では広報の重要性を理解するために動画の制作やSNSの効果的な発信について学び、8月例会では千歳市納涼盆踊り大会に向けて子供たちの夢を記載した大きな山車を共に製作し中心街の活性化に向けて取り組みました。

そして11月例会では集大成としてSNSを活用し多くの企業、市民を参加者として募り大人向けの体験例会を開催し新たなコミュニティーを通してまちの活性化を図ることができました。



事務局 事務局長 土門 哲也

事務局は、メンバーの誰もが滞りなく活動に進進できるよう、組織運営を担い、より良い社会をつくる運動の力を最大化するための下支えをしてまいりました。諸会議が円滑に進行できるよう、総務委員会を技術面でバックアップし、環境整備に努めました。

また、本年は電子署名システムを導入し、委任状、同意書、承諾書といった文書の電子化、ペーパーレス化を促進し、迅速な意思決定を支える仕組みを構築し、運用を始めました。



会議・委員会報告

会員拡大会議



会員拡大会議 議長

林 征希

会員拡大会議では、昨年に引き続き30名の入会目標を掲げ活動してまいりました。目標人数には届きませんでしたが、会議体メンバー一人ひとりの努力により、多くのメンバーに入会していただきました。また、担当した2月例会では、メンバーが目標を持って行動ができる人財に成長できるような内容を構築し、7月例会では、入会歴の浅いメンバーへのフォローアップを主体とした内容で構築いたしました。



ジュニアチャレンジ醸成委員会



ジュニアチャレンジ醸成委員会 委員長

山根 勇人

ジュニアチャレンジ醸成委員会はまちに住まう子供たちの挑戦心を醸成し、自己肯定感を高められる環境づくりに邁進して参りました。1月には2024年度千歳青年会議所のスタートとなる新年交際会を担当し、5月にはCHI×GAKUと題して市内中学校、市教委をお招きし地域と学校教育の繋がりについて考える例会を開催いたしました。9月には3C～未来をつかもう～と題して勇舞中学校1年生を対象に市内50企業様にご協力をいただいて、



職業体験の実現を後押しする事業を開催しました。1年間を通してまちの教育環境が抱える課題を抽出しジュニアチャレンジ醸成委員会としてしっかり向き合うことができました。

MACHIリノベーション委員会

MACHIリノベーション委員会 委員長

成田 芽生

4月第2例会ではインスタグラマーをお招きしてInstagramの基礎を伝授していただき、8月例会では盆踊り大会は雨天中止になりましたが、山車を制作し短冊を吊り下げた提灯を子どもたちと飾りました。11月例会では若者を集いコミュニティ形成のきっかけのひとつになりました。年間を通してSNS広報に尽力しフォロワー数も大幅に伸びたことから活動に注目していただけただけの年だったと思います。

MACHIリノベーション委員会はSNS媒体を通じて千歳青年会議所の活動を発信し、興味をもっていただくことを目的に活動して参りました。



総務委員会

総務委員会 委員長

井上 慎也

会員手帳や名刺、ネームプレートの作成、スノーバスターズ事業、千歳ウエルカム花ロード事業、定時総会や臨時総会の設営、6月3LOM合同例会、役員選出選挙、千歳川清掃、9月例会、年間報告書の作成、そして毎月の理事会の招集及び設営など、多岐にわたる活動を展開してまいりました。委員会メンバーと目標を共有しながら「信頼」を勝ち得るために1年間最後まで活動できたことに感謝しております。

総務委員会は年度の始めに「信頼」という文字が大きく書かれた委員会旗を贈呈していただきました。13名の委員会メンバーで力を合わせ、組織全体の下支えとなるよう、



出向者報告

公益社団法人日本青年会議所 組織グループ JC教育推進委員会

委員
高橋 孔明

委員
米田 大樹

5月にJCI Achieve、JCI DiscoverならびにJCI Impactのトレトレを開催いたしました。トレトレは、ヘッドトレーナーよりトレーナーとしての立ち振る舞い、プログラムの進め方を直に指導していただき、日々の青年会議所活動にも生きる内容として学ばせていただきました。

公益社団法人日本青年会議所 国際グループ グローバルピース委員会

会計幹事
土居 潤哉

委員
石黒 菜摘

委員
稲葉 セドリック

世界平和推進の一助としてグローバルユース・少年少女国連大使育成事業、サマーコンファレンスにてフォーラム、ASPACにてグローバルピースサミットを実施しました。また、カンボジア、フィリピン、ベトナムにて大使達の平和についてのプレゼンや、戦争を無くすための様々なワークショップを行いました。



公益社団法人日本青年会議所 総務グループ 規則審査会議

委員
富樫 昭大

公益社団法人日本青年会議所 総務グループ JCブランディング会議

副議長
土門 哲也

小幹事
竹原 涼太

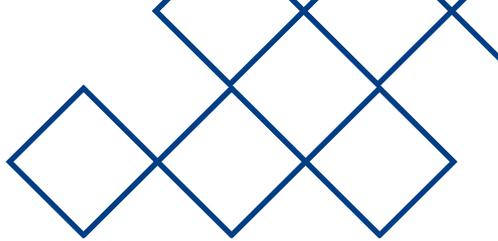
委員
南雲 英利

委員
林 征希

委員
平澤 美穂

JCブランディング会議は推進事業や全国一斉事業などの運動を、対外対内を問わず、JCへの共感をより高められるような広報活動を実施してまいりました。マスコミ、メディアとの関係構築として積極的なプレスリリース配信を行ったほか、Facebook、Instagram、LINE Voomを用いたSNS発信では合わせて1,200件以上の投稿を行いました。また、機関誌WeBelieveでは全国のLOMメンバーや事業の紹介記事を掲載し、事業構築の一助となる紙面を作成いたしました。





公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会

監査担当役員 顧問
生杉 隆礼 瀧 雄一

財政・規則・会計に基づいた監査を担当させていただき、公益社団法人として外部からの信頼に足る組織運営を行うために、法令・規則に則って北海道地区協議会の業務執行及び会計処理が適切に行われているかを1年間監査しました。

公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会

事務局

事務局長
富樫 昭大

監査担当役員と財政特別委員会の調整役として事務局長を務めさせていただきました。北海道地区の運動の下支えをするために、予算書の作成、財政規則面のチェック、公文書の管理や地区ブロックの人事案件などを担当し、公益社団法人としての基準に沿って組織運営に寄与しました。

公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会

道央エリア運営会議

運営議長 幹事
高橋 孔明 島本 弓樹文
議員 議員
牧 桃太郎 吉田 裕基

道央エリア運営会として、LOMの垣根を越えたメンバー同士の絆を育み、主体性をもって地域社会の課題解決に向き合う人財の創出を目指してまいりました。千歳青年会議所のメンバーからも多くの出向者、また多くのアカデミー塾生を輩出していただきありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会

財政特別委員会

副委員長 委員 委員
鈴木 丈弘 阿部 亜子沙 南雲 英利

財政特別委員会では、諸会議に上程された議案の予算及び決算の審査や、会則、公益目的の管理を主とし、コンプライアンスの周知徹底や諸事業及び議案の審査を行い、北海道地区協議会、北海道ブロック協議会が展開する運動の下支えとして活動を展開してまいりました。

道央エリアアカデミー研修塾出向者 (21名)

吉田 裕基	南坂 康太	仲井 寿樹	牧 桃太郎	阿部 亜子沙	石黒 菜摘
金山 佳央梨	高岡 暁	竹原 涼太	中村 泰征	南雲 州太郎	藤田 哲哉
かわい 潤	五十嵐 智也	菅原 桃代	南雲 英利	服部 良太	今 裕太郎
稲葉 フランチェスカ		門脇 拓哉	疋田 之彦		

例会開催報告

1月 新年交礼会 ～決断は、今の自分ではなく理想の自分で！～



新年交礼会では新体制の披露をすると共に、千歳青年会議所の1年間の運動や事業の方向性を参加いただいた方にお示しすることで運動へのご理解をしていただく内容といたしました。齊藤理事長の新年の挨拶をはじめとする日頃からのご協力に感謝の気持ちを込めて、千歳青年会議所メンバーが1年間の運動や事業に全力で取り組んでいくスタートを切ることができました。

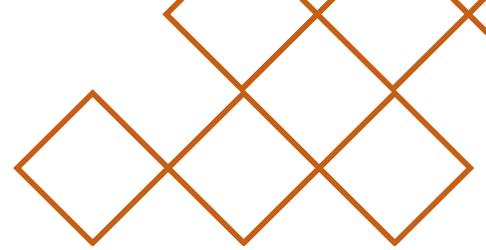


2月 WE ARE THE CHAMPIONS ～未来のチャンピオンは君だ！！～



青年会議所での学びや魅力を伝えるために、また、青年会議所活動により一層向き合ってもらうために、目標設定をする機会の提供を行う例会といたしました。本例会を通じて、一人ひとりが挑戦する重要性、目標設定をすることの重要性を感じてもらうことができました。





4月 第1 ～ステークホルダーと目指す未来ビジョン～



地域のパートナーの皆様にも多くのご参加をいただいたことで、今後の活動についてのご理解をいただく事ができました。講和によって様々な視点や立場から考えるビジョンの重要性について理解が深まり、多くの学びを得る機会となりました。グループワークでは行政と関係諸団体の皆様から活動内容についての思いなど沢山のお話を聞く機会となりビジョンの実現に向けての第一歩となりました。



4月 第2 広報新時代！ ～未来を拓く最新トレンドを活かした動画戦略～



講師としてインフルエンサーの村中様をお呼びし、動画を制作するポイントや見る方に興味をもってもらえるサムネイルの作り方など最新のトレンドを活かした情報発信について学びました。広報の重要性を理解し積極的な広報活動やSNS発信につながる機会となりました。



例会開催報告

5月 ～CHI×GAKU 地域と学校教育をつなげよう～



コミュニティスクールの認知と、地域と住民が一体となり子供たちを育むことの重要性、学校教育との共創に向け地域が学校教育と関りをもち、地学協働を第一歩とし、地域が介入し本来の業務を全うできる環境を目指しました。自身の仕事でどのようなことが授業として作ることが出来るのかを考えていただき新たな考えを聞き話し合えたことで、新たな考えや視点が生まれ地学協働についての理解を深めることができました。

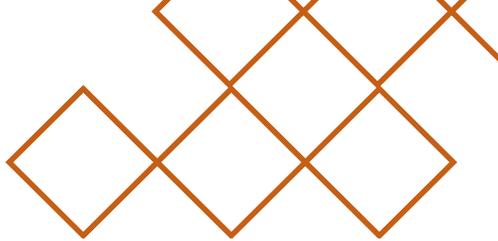


6月 3LOM合同例会 ～3LOMミニバレー CUP 家族になろうよ～



ミニバレーを通じて3LOMの交流を深め、楽しみながら互いの理解を促進する機会となり、例会や事業に気軽に参加し合えるきっかけづくりができました。例会を計画した時間、チーム毎に事前練習をした時間、優勝を目指して汗を流した時間が関係を深め、近隣LOMではなく家族のような関係になることができました。





7月

～千歳青年会議所の未来への継承～



青年会議所活動への意欲を高めることを目的に構築し、会議体プレゼンテーションではJCについての説明を実体験を交えて、入会歴の短いメンバー向けに説明いたしました。インタビューセッションでは、3名のメンバーにどのような思いで活動を行っているか全てのメンバーの参考になるお話をさせていただきました。ワールドカフェでは、入会歴や経験がバラバラなメンバーと、リラックスした雰囲気の中で入会して気づいたことを話し合い、それぞれの考えを知ることで新たな気づきが生まれた時間となりました。



8月

～MACHI山車PROJECT～



千歳市の中心市街地の活性化に対して機運を高めることを目的として山車を制作しました。山車には提灯と子供たちの未来を描いた短冊を吊るし、市民の関心を高めることを目的としました。悪天候で盆踊りは中止となってしまいましたが、子供たちと共に提灯の設置を行い、制作過程をSNSで発信することで機運を醸成しました。



例会開催報告

9月～皆で考えよう！100年後も残る持続可能な組織を～



第1部では北一ミート株式会社の田村健一社長より講演をしていただきました。アンケート結果から組織づくりに対して非常に参考になったと答えた方が多く、組織の課題解決の一助になったと実感しております。第2部のグループワークでは「出席率やメンバーの巻き込み」など、身近な問題についてディスカッションを実施し、未来のために一人ひとりが考えそして積極的に意見を出し合い、自分達の組織は自分達で作り上げるという気概が高まる例会になりました。



10月

～JCで創る未来へ～



1部では三役プレゼンテーションにより、青年会議所活動での経験から得られた3信条をお伝えし、第2部では卒業生から面白エピソードや失敗談、誰しもが失敗と挑戦を繰り返して今に至っているのだと事実を語っていただきました。第3部では三澤顧問による凡事徹底のご講演をいただき、JC活動だけにとどまることない不変的に大切にすべき本質について学ぶ機会となりました。



11月

『大人の習い事フェス』 ～趣味からつながる、新たな自分～



本例会は20～39歳の千歳市民30名に参加を募り、千歳市内で教室やお店を営む企業に出展していただき、習い事をテーマとして各出展ブース体験をしていただきました。本例会を通じて参加者同士が感動を共有しコミュニケーションを取ることに前向きになっていただくことで、まちへ出る理由付けとまちの活性化の機会といたしました。



12月

～継承の灯～



これまでご尽力された卒業生に向けて、現役メンバーより労いと感謝の意をお伝えし、2024年度の活動報告と活動総括により1年間を振り返り、ご協力いただいた皆様へ感謝の意を表しました。そして、次年度理事長挨拶に続き、次年度体制の熱意を表現し、今後の千歳青年会議所の運動に対してもご支援・ご助言をいただけるように先輩諸兄妹にも共感をしていただける例会といたしました。



事業報告

00 かわたびほっかいどう 受賞！ CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2023 ～CHITOSEみらいEXPO～

1月16日(火)に北海道開発局主催の、かわたびほっかいどう活動報告会が開催されました。『CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2023 ～CHITOSEみらいEXPO～』が300事業中の13の中に選ばれ、審査員の前で事業説明をプレゼンテーションし、熱のこもったPRをいたしました。翌日発行された北海道建設新聞にて、かわたびほっかいどう活動報告会の様子が記事として掲載されました。



01 スノーバスターズ2024 主管：総務委員会

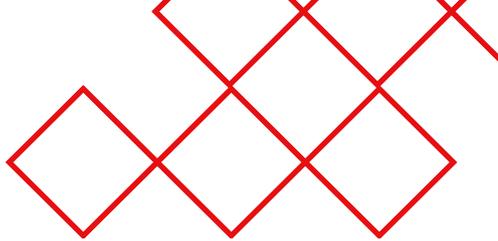
2月3日(土)にスノーバスターズ2024が開催されました。千歳青年会議所及び航空自衛隊千歳基地、陸上自衛隊東千歳駐屯地・陸上自衛隊北千歳駐屯地の有志で構成する「青空東北会」、そしてご支援いただいている市内の企業、団体、中学生や町内会の有志総勢600名が集い、除雪の困難なひとり暮らし高齢者等の世帯を対象に住宅周辺の除排雪を行いました。前日の大雪で重機が到着せず全て手作業となりましたが、600名のマンパワーで約1時間半作業を行い、市民の喜ぶ顔を想像しながら汗を流しました。



02 千歳青年会議所OB総会

3月2日(土)にホテルグランテラス千歳にて千歳青年会議所OB総会合同懇親会が開催されました。60周年ということもあり、多くの先輩諸兄姉より温かいアドバイスをいただき、大変貴重な時間を過ごすことができました。





03 2025年度役員選出選挙

7月11日(木)に2025年度 役員選出委員選挙が行われました。Googleフォームを用いた電子投票にチャレンジし、投票から集計までスムーズに行うことができました。選出委員会も無事に開かれ2025年度の理事長を選出することができました。



04 千歳ウエルカム花ロードver.22 テーマ「千歳から始めよう！花ロードの旅～心彩る花旅を～」

今年で22回目を迎えた千歳ウエルカム花ロード。観光や仕事など千歳市に来られる多くの方々をキレイな花でお出迎えし、地域におもてなしの心を醸成するために実施しております。本年度はマリーゴールドとジニアの2種3色で約7kmの街道を彩りました。お手伝いいただいた千歳小学校と緑小学校の生徒さんの笑顔のように、夏の暑さにも負けず、14,000株の花が沿道にキレイに彩りました。



05 千歳川清掃(中止)

2024年度の千歳川清掃は台風10号による悪天候のため中止となりました。市内外の応援企業や団体、総勢約300名より参加の申し込みがありました。

事業報告

06 9月事業～3C～未来をつかもう

主管：ジュニアチャレンジ醸成委員会



9月事業～3C～未来をつかもうでは、勇舞中学校の1年生257名を対象に生徒自身で履歴書を書き、SDGsに寄与している千歳市内の50社の企業の中から選び、職業体験を行いキャリア教育を行うことができました。

生徒たちは地元の企業で職業体験をすることで、地域とのつながりをもつことができ、そこに郷土愛が生まれ、千歳に愛着をもつ子供たちが増えることが期待できます。また、受け入れ企業だけではなく生徒の送迎や写真撮影、レポート作成など、当事業にご賛同いただいたサポートメンバーのご協力もあり、無事に事業を終えることができました。



2024年度 会員褒賞

例会出席率100%の会員の皆様に対し褒賞いたしました。



齊藤 創



大久保 景右



米田 大樹



鈴木 文弘



林 征希



土門 哲也



山根 勇人



南雲 州太郎



阿部 亜子沙



南雲 英利



中田 愛



菅原 桃代



土居 潤哉



特別会員褒賞

BEST GOAL賞
阿部 亜子沙君



スノーバスターズ団体賞
三役直前顧問監事チーム



Achievement賞
南雲 州太郎君



Flower Hospitality賞
総務委員会チーム



創立60周年記念式典

記念式典では千歳青年会議所の創始からの歩みをお伝えし、私たちは今後も「足を使い、汗をかく」という意志をお示しました。その後、新たに策定した2028年までの中期ビジョンを発表し、「街づくり」、「人づくり」、「組織づくり」の三つの柱を掲げました。より強固な組織として成長するための中期ビジョンをわかりやすく運用するCHITOSE GOALSを策定し、それぞれの課題解決にむけて千導していくことを決意表明しました。

JCI CHITOSE COMMITMENT

「Community」でひろがる輪
「Challenge」でつかむ未来
「Change」から創り出す
新たな価値を創造する。

中期ビジョンの
詳細はこちら→



創立60周年記念大懇親会

大懇親会では、メンバー丸となつて出席していただいた方におもてなしの心を充分にお伝えするため、テーブル装花やテーブルの一人ひとりに手紙をお送りしました。

オープニングで和太鼓を演奏した日本航空大学校の被災した現状や、能登半島地震の被災ボランティア活動を動画上映し、千歳青年会議所としての活動に理解を深めていただきました。

創立60周年記念大懇親会

最後は平和への祈りを込めてスカイランタンを浮上させ、ロマンチックで幻想的な空間を演出しました。先輩諸兄姉をはじめ各地会員会議所、関係諸団体など関わる全ての方々にメンバー一同で感謝と敬意を伝えるためにホスピタリティ溢れる大懇親会を行い、歴史と文化を継承し、対外関係者の方に創立60周年に対する千歳青年としての組織の方向性を示すことができました。

60周年記念事業

アドベンチャーフィールド



アドベンチャーフィールドでは参加対象者を小学生(3年生～6年生)に限定し、将来職場や地域社会において多様な人々と自主的に連携していく人財に成長するために防災教育を通して社会人基礎力を身に付けられる内容としました。千歳市消防本部様やボーイスカウト千歳第一団様にご協力いただき、13時から20時という長時間に渡り様々な体験を行いました。子供たち同士で積極的にコミュニケーションを取り合い、諦めない気持ち、乗り越える気持ちなど生き抜く力を身に付ける機会となりました。



消火器による消化体験、簡易担架による人命救助を学びました。



カレーづくりは、グループでどの野菜を入れるのか、誰が切るのか。どうお米を炊くのか。おいしいカレーをつくるという同じ目標をもち、学びの多い体験となりました。



CHITOSE WORLD PEACE FESTIVAL

2024.08.11

グルメフィールド



道内より20台のキッチンカーが集まり、噴水を見て涼みながら美味しい食事や飲み物を楽しめる空間となりました。SNS総フォロワー数30万人の北海道グルメインフルエンサー「るい」さんにも足を運んでいただき、各店の食事を堪能していただきました。また、会場内には千歳市ゼロカーボンシティ宣言を推進するPRブースを設置。千歳市民環境部環境課のご協力により太陽光発電や蓄電池、EVの展示を行いました。キッチンカーの一部店舗ではユーカリ由来の生分解性素材を使用した食器による食事提供を行い、来場した皆様に楽しみながら環境問題への取り組みを知っていただく機会となりました。



60周年記念事業



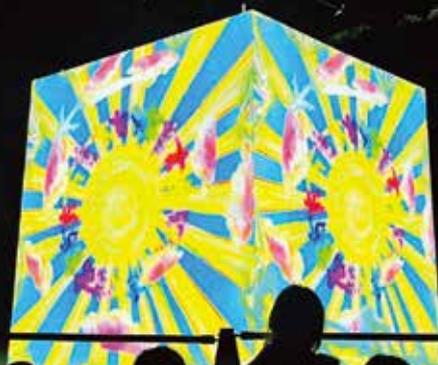
「防災チャレンジ！大運動会」と題して、各所に設けた災害時を想定した障害をチームでつないでクリアしていく運動会を開催しました。出場者は担架、カップ、スリッパづくりなど災害時に使用できる知識を身に付けたり、車いすで瓦礫の上を通る大変さを体感したりと、炎天下の中汗を拭いながらチームで協力してゴールを目指していました。運動会終了後には参加賞として札幌日清食品株式会社様とカルビー株式会社北海道様からご協賛いただいたカップラーメンとお菓子をお渡ししました。

また、会場内では北海道森紙業株式会社様よりご協賛いただいた段ボールベッド使用体験、北海道ガス株式会社千歳支店様による災害時のガス対応の知識に対する展示ブース、陸上自衛隊第7師団第11普通科連隊様による特殊車両展示を行いました。

運営にあたりボランティアとしてご協力いただいた北海道理学療法士会様、車椅子をお貸しいただいた社会福祉法人千歳市社会福祉協議会様といった多くの皆様にご協力いただき、ケガなく無事に実施することができました。



フィナーレ



CHITOSE WORLD PEACE FESTIVAL

2024.08.11



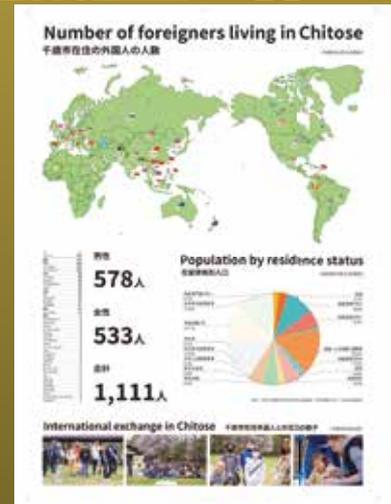
北海道在住のフィリピン人とインド人コミュニティの皆様にご協力いただき、様々な文化体験ブースを設置しました。

インドブースは伝統的な文様の手作り木製スタンプを色とりどりのインクで手や腕に押しオシャレをしたり、粉末や粒状の材料で絵を描くランゴリーづくりを体験しました。手しごとイロリの三宅泉様にご協力いただいたターバンの草木染めでは、摘み取ったお花などからつくった染料を使って一人ひとり自分だけの柄のターバンを染め上げました。

フィリピンブースで実施したフィリピン発祥のバンブーダンスショーには来場者も飛び入り参加し軽快なステップを披露していたほか、シーパという伝統的な遊びを道具づくりから行い、大人も子供も楽しみながら体験していました。

JICA北海道ブースでは活動紹介パネルやクイズを実施し、世界のことを楽しく学ぶことができました。

その他にも、一般社団法人観光連盟提供の観光PRムービー上映や、千歳市観光スポーツ部交流推進課提供の情報をもとに作成した千歳市内在住外国人についてのパネル展示による情報発信を行いました。



CHITOSE WORLD PEACE FESTIVALを締めくくるフィナーレとして『Light for the future~未来への光~』をテーマにプロジェクションマッピングを株式会社マテック様の協賛により実施しました。三面のスクリーン上にて光と音が交錯し約 300 名の来場者に見ていただくことができました。

生命を表すような植物と生物が共存していることが表れている映像、千歳市ならではの映像、誰もが手を取り合い、尊重し合える平和な世界、未来への願いを込めた映像が上映されました。真っ暗な大自然の中で光と音が交錯し、色とりどりの幻想的な世界をつくり出しました。

